

北海之光

11月号 北海道教区報

わたしがここにおります

わたしを遣わしてください

イザヤ書6章8節

発行所 北海之光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

幼稚園は宣教最前線 その二

紋別聖マリヤ教会牧師

司祭 アルバン 阿部 芳克

「おはよう」「おはようございまーす」

今朝も朝一番乗りで幼稚園にやってくる子どもたちの元気な声が玄関に響きます。わたしも負けずに「おはよう」と大きな声で迎えます。こうして今日も子どもたちと親御さん、そして先生たちとの大切な一日が始まります。

二〇一四年四月、妻とわたしは九年間奉仕した苫小牧の教会と幼稚園から、オホーツク海と横文字の名前がついた人口二万三千人の小さな町にある紋別聖マリヤ教会と付属の紋別幼稚園に牧師兼園長としてやってきました。場所が変わっても可愛い子どもたちの世界がここにもありました。ですからその時はまだ、紋別幼稚園に重大な問題が潜んでいるようとは思っていません

でした。しかし、それは紋別幼稚園が長年行ってきた「父親参観日」の時に知ることになりました。

「父親参観日」が近づいたある日、担当の先生が案内の手紙を作りました。その中にこう書かれていました。「お父さん、お母さんどうぞ参加下さい。」不思議に思った私は原稿を作った先生に尋ねました。「父親参観日なのにどうしてお母さんなの？」すると先生は「お父さんが来るのが出来ないうちがいて可愛そうだからです。」と言いました。

わたしは「どうして来られないの？仕事かい？」と重ねて聞きました。先生の答えは「離婚したからです。」でした。さらに「紋別は離婚が多いんですよ。」と言いました。ある日、預かり保育で残っ

ていた子どもが一人いました。私は先生に「この子たちの内、親が離婚を経験している子は何人いる？」と尋ねました。先生は「八人です。」と言いました。それを聞いて私は言葉を失いました。やはり紋別は離婚が多いのか？

事実、二〇一五年度は園児の親五組が離婚し、そして二〇一六年度は七組が離婚しました。

そこで、紋別市は本当に離婚が多い町なのかどうか、北海道と札幌市と苫小牧市、そして紋別市の離婚率を調べました。すると、札幌市は二、四二。苫小牧市は二、六九。そして紋別市は二、〇三。北海道全体では二、〇六でした。この結果が示しているのは、紋別市が離婚の多い町だということではなく、紋別幼稚園の園児の親の離婚が異常に多いということでした。

これは大変なことになっていくと思いました。なぜなら、紋別幼稚園は教会の幼稚園だからです。「神の国はこのような者たちのものである。」と

言って、子どもを抱き上げ祝福されたイエス様の教えを伝えることが使命である、教会の幼稚園だからです。その幼稚園が離婚の中心地であり、そのことが見過ごされてきたことは一大事だと思いました。

人生は容易ではないことは確かです。しかし、子どもたちは、大人が困難に直面しながらも、苦勞して乗り越えて行く姿を見て育ちます。ですから私たちにはそのことを伝え、「子どもは大切」をしつかり伝えていく教会の幼稚園としての使命があります。

この時以来、先生たちの奮闘が始まりました。先生たちは時間と場所を惜しまず、お母さんたちの話に耳を傾け、一緒に困り、そして共に泣きました。先生たちのその働きのお陰で、昨年度、離婚した家庭は「ゼロ」でした。今日も紋別幼稚園では子どもたちの賑やかな声が聞こえ、イエス様の教えを生きる先生たちの平和に満ちた姿があります。紋別幼稚園は宣教最前線です。



—心の窓をひらいて—

福音と私(二二二)



—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

函館聖ヨハネ教会信徒

ルデア 大塚 陽子

好きな聖句

万事が益となるように共に働くということを、私たちは知っています。

ローマの信徒への手紙八章一八節

六四歳の私は、二〇〇一年四七歳で受洗しました。受洗に至るまでには、一六年にも及ぶ名古屋での大学時代に出会った腹心の友の辛抱強い祈りが有りました。

彼女は、幾度と苦難に遭っても頑なに神様を受け入れない私に、一時救いを諦めた事もあったそうです。そんな私でしたが、二〇〇〇年、やっと心を開き、神様を受け入れました。

受洗は、福音派の賛美も賑やかな教会でした。二〇一〇

礼を受ける事ができました。私は初穂として誕生し、今年一七年間の信仰生活を迎えました。

六四年間の人生を振り返ると、受洗には至らなかつたものの独身時代同僚と共に教会へ通った母から讃美歌を教えてもらい、小学校高学年頃には、近所へ引越して来られたカナダ人宣教師の伝道所に通いました。高校はカトリックで、担任や校長先生が修道女でした。高校生活を通して、カトリックの宗教観に触れました。

しかし高校卒業記念誌の寄せ書きに書いた一言は、『無』でした。今読むと何と希望のない女学生だったのだろうと思ひ、世をはかなむような思想に驚く次第です。高校時代のあだ名は、おばさん。クラスメートのの中では、世の中を見据えたように見えていたようです。曹洞宗永平寺が設立した大学に進学。その大学で出会ったのが、富山県小矢部市で牧師をしている私の救いの為に祈り続けてくれた友で

す。人生は、望むようには行かず、時に辛苦の連続であると思ふことも有ります。

しかし、五一歳まで養護学校に勤務していた時も(最後の勤務校では特に生命に関わる医療的ケアの必要な生徒たちを担当させていただき)、八年前に倒れ現在寝たきりの九〇歳を迎えた母の介護を在宅でしている時も、また乳児期の怪我により知的障がい者として生きる弟(五九歳)に寄り添い介護している時も、家族や私自身に起こる様々な出来事の中を通る時も、振り返ると、神様はいつも共にいてくださり助け支え導いて下さいました。そして、今も悩

み苦しみの中にありますが、時には涙し祈り、希望を抱き、御心を求め生きています。一月中旬には、京都聖マリア教会で長男(未婚者)が結婚式を挙げて頂きました。まだまだ短い信仰者としての歩みですが、誌面に記せない程多くの人知では計りしれない神の愛を、主は表して下さいました。

二人の孫の名前を、娘はマルコの福音書一三章三二節から隣愛と詩編二三章六節から恵慈と付けました。

ここまで生きてこられたこと、憐み深い神の愛に、感謝でいっぱいです。主の平安が有りますようにお祈りいたします。

公 示

救主降生2018年11月22日
日本聖公会北海道教区
主教 ナタナエル 植松 誠

司祭 ジョシュア ^リ ^{ヒャンナム} 李 香男
2018年11月9日付で、その聖職籍を、北海道教区より、米国聖公会ロス・アンジェルズ教区に移籍する。

執事 エリザベツ 阿部 恵子
2018年11月21日付で、聖職候補生の任を解き、同年11月22日付で、札幌キリスト教会牧師補に任ずる。

執事 ノア 上平 更
2018年11月21日付で、聖職候補生の任を解き、同年11月22日付で、新札幌聖ニコラス教会牧師補に任ずる。

常置委員会報告 第二回 一〇月二二日

《協議事項》

一、執事按手式の件(牧師補任命の件)

・阿部恵子・上平更両聖職候

補生の執事試験結果、並びに植松主教より両聖職候補生の執事按手の意向を受け、常置

遣先の牧師補に任命するとの主教諮問に同意した。

委員会に執事への按手を認め

二、教区会提出議案の件

た。按手式は、十一月二二日六時三〇分よりと決定した。

・室蘭牧師館部分の撤去について、基本財産変更の議案を提出する事とした。

また、両師をそれぞれの現派

三、新札幌聖ニコラス教会・



主教室より

昨年亡くなった両親は、以前から献体の手続きをしていました。母が医者だったこともあるせいか、献体に関してはとても熱心で、毎年行われる献体登録者の会にも出席していたようでした。若い医学生が学ぶためにとの思いもあったのかもしれません。昨年三月に召された父のお骨が、来年一月末に戻ってくることに

りました、子どもであったり、伴侶であったりした、愛する者の生きてきた証であり、在りし日の面影をそこに見出すのです。もう温かい手も体もないが故に、せめてその深いところにあつた骨を慈しむことで気持ちを収めるのかもしれません。

で開かれた「世界宗教者平和会議」のシンポジウムでお話くださった、殿平善彦(ご住職)の遺骨返還の活動は、私たちにとってはとても衝撃的なものでした。強制連行され、重労働を強いられ、挙句の果てに物のように捨てられた人々。一人ひとり埋葬されたのは稀で、その多くは何人もが一緒に埋められ、誰の骨かもわからなくなっている状況。ご住職はその中から遺骨を拾い上げ、韓国の家族に返す働きを最初は一人で始められたのです。宗教の違いを超えて、亡くなった方の人としての尊厳を守り抜くお働きに、心から、神の慈しみを覚えます。

一般的に、日本人にとつて、お骨はやはりとても大切なものです。親であった

先日、札幌キリスト教会

主教 ナタナエル 植松 誠

苦小牧聖ルカ教会地震被害の件

・両教会の地震被害修復の為に募金を道内教会に依頼する事とした。

四、稚内聖公会、厚岸聖オーガスチン教会、旧帯広双葉幼稚園の件

・現況報告を聞き今後について継続審議とした。

五、女性司祭二〇周年感謝プログラム(東京)について

・木村夕子司祭、阿部恵子聖職候補生を派遣する事とし、費用は教区が負担する事とした。

堅信式受領 おめでとう

帯広聖公会

フランシス

マーガレット

マーガレット

フランシス

寺本

寺本

小椋

小椋

優

美百合

あすみ

かんと

聖マーガレット教会

マルコ

モニカ

伊達

丸山

佑果

祥大

ゆうか

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

二月二日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 岡村 国夫

一九五四年二月一日

司祭 N・D・スミス

一九八四年二月四日

司祭 ウォルター・デニング

一九一三年二月五日

司祭 W・D・エディ

一九八九年二月五日

司祭 木村 光二

一九七九年二月九日

伝道師 北野 幸太郎

一九五七年二月一日

伝道師 津田 四郎平

一九一三年二月一日

司祭 大井 浅吉

一九二五年二月二〇日

執事 前川 修

一九四八年二月二三日

伝道師 永久保 秀二郎

一九二四年二月二四日

司祭 荒木 蕃三

一九四八年二月二四日

司祭 大矢 敬香

一九四二年二月三〇日

(一〇月八日 札幌キリスト教会にて)

二〇一八年 教区修養会報告

教区宣教活動推進部長

ダニエル 尾 関 敏 明

大型の強い台風二五号が北海道を通過する最中に開かれた今年の教区修養会のテーマは「わたしたちの祈りと生活」――祈り書の豊かさ再発見――というものでした。つい先日、北海道胆振東部地震により北海道では経験のない震度七の激しい地震が発生し、同時に全道が一斉に停電となる「ブラックアウト」、そして多くの災害被災者が発生した困難な時期でした。余震も度々発生し、台風がもたらす風雨災害も懸念される中、本当に、多くの参加者により実現に導かれた修養会でした。講師は、この春退職されたばかりの横浜教区の相澤牧人司祭でした。北海道教区の永谷司祭

が関わっておられる「祈り書改正委員会」のお働きの中から選ばれたテーマであり、同時に最適の方として選ばれた講師でした。

祈り書は毎週の主日礼拝に必ず用いられます。しかし、聖書日課や聖歌集を併せると結構な重さになることもあつて教会に置いておくという方もおられます。そして、いつも持つていても日常生活の中で祈り書を開く機会は少ないというのが私たちの姿ではないでしょうか。そんな中で、聖公会の祈り書の豊かさを再発見し、日常生活の中に生かしてゆくことにより、日常生活をより豊かなものにしようという意味で選ばれたテーマです。

聖公会の現行祈り書は既に五百年近い歴史の中で連綿と引継がれてきたものです。そして常にその時代における聖公会の過去、現在、未来をしつ



かり研究しながら、今、この時代に使う祈り書として創られてきたものです(第六四(定期)総会における植松首座主教の挨拶)。そしてこれは、教会生活と信仰の実践の指針であると強調されました。「日本聖公会における信仰と生活を共にする人が、神に造られ、いのちを与えられた民として、キリストと共に旅路を歩んでいくために用いる祈りの書です。」とされているのです。ですから祈り書には、私たちの生活の中の色々な場面で用いられる祈りが掲載され

ています(成文祈り)。それ故に、その時その時新たに考えて祈る自由祈りは苦手と言う方も多いのです。自由祈りが苦手であるという事を、心が入らないとか、生ぬるいという批判を聞く事もあります。が、私たちが用いる祈り書の礼拝は、個人が考え出せるよりもはるかに完全な形で、普遍的で、信仰を忠実に言い表し、時代の知恵を表明した豊かなものである事を知る時、そのような批判は当たらないのです。

る。祈り書は私たちキリスト者に対して、天の国に至る道を示す生活の指導書であると言えましょう。中略、祈り書の豊かさを知るとは、その祈りが自分の祈りになる時、それが理解されてくるのではないのでしょうか。また、豊かさは求め続けていく時に気づかされるものではないでしょうか。そこに近づこうとしていく時に得られるものではないのでしょうか」と結んでいきます。本当に聖公会で良かったと実感した修養会でした。



感謝 北海の光献金(敬称略)

相澤司祭は、「祈りは口より出で来ぬとも まことなる霊の 願いごとぞ…」(聖歌五四九)に込められた祈りの多様さ、奥深さを先ず引用し、現行祈り書の成立経緯から始まり、私たちの生活の中で祈り書が存在する意義、そこに取り上げられた多くの祈りの豊かさを淡々と語られました。四二ページに及ぶレジュメは最後に、「祈り書の生活における一日の意味」として、眠るとは死ぬこと、目覚めるとは復活を意味してい



カナダ青年研修を終えて

札幌聖ミカエル教会信徒

ミカエル 直井 岳

八月下旬バンクーバーでの、先住民族に対するキリスト教による迫害の歴史を学ぶ青年研修に参加しました。一〇代後半から二〇代前半の青年一〇名。

聖公会からの参加者は私人でしたが、この研修で得たものは貴重な経験や体験だけでなく、一生大切にしたい素晴らしい仲間との出会いです。

研修プログラムは、カナダの先住民族だけでなく世界のさまざまな民族に関する展示物が数多くある資料館で先住民族について学習した後、カナダの先住民族ファースト・ネーションズが受けた迫害を疑似体験しながら歴史を辿りました。とても恐ろしく、とても悲しい迫害の歴史でした。他にも神学校、大学、



教会、鮭の缶詰工場、ホームレスの人達の支援施設がある教会などさまざまな場所を訪れ、更に子どもたちのための教会の活動に参加しました。北海道に住む私は、アイヌ民族についてもっと学習を深め、正しい知識をもたなくてはならないと強く感じました。

畑野 寿子(芦屋市)

れきぶんの扉

教会の歩みを振り返ることは普段の信仰生活ではそれほど重要なことではないかもしれませんが、学校で学んだ歴史も年号と事実で埋め尽くされた記憶の羅列でしょうか。教区事務所の書庫は箱詰めになった資料が棚や床に置かれています。アーカイブズという記録の書庫は単なる物置ではありません。保存されている様々なものがひとつの歴史を紡ぐ情報を提供してくれそうです。その情報を紡ぐのは何かの繋がりを求めている皆さんであって、歴史家だけではありません。前置きが長くなりま

したが、教区の歴史文書をあずかる私たち「れきぶん」チームはほぼ毎週定期的な書庫で預かりしている資料の整理をしています。その時代や組織によってそれぞれの歩みがあり、ここに遺された資料も様々です。私達は年に一回は実際に記録の元である教会や施設を訪ねしようと計画しています。昨年は小樽聖公会を訪問

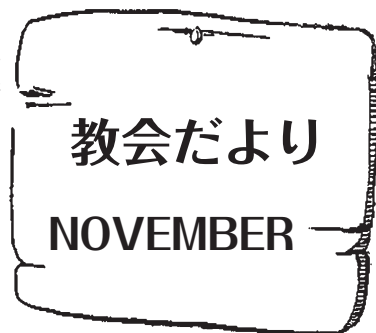
予定でしたが当日の天候が悪く中止、今年一〇月によるや訪問が実現しました。牧師永谷司祭にどのように記録の保存をしているか説明を受けました。小樽聖公会では昨年からの規定にもとづく記録の管理をめざし文書管理規定を設けています。まだ仮運用とのことですが判りやすい表にして保存期間を決めていることが重要な点です。教会として保存すべき資料は次のように整理されてきました。

- ① 教会が作成した資料
 - ・ 永久保存・教簿簿、礼拝日誌、週報、教会委員会議事録、公示、墓地関連書類、総会のしおり
 - ・ 最低一〇年保存・会計帳簿
 - ・ 最低七年保存・会計証憑等
- ② 教区が作成した資料
 - ・ 永久保存・教区会決議録、教区婦人会総会決議録
 - ・ 最低一年・公示、北海道各教会教会報
- ③ 管区が発行した資料
 - ・ 永久保存・管区総会決議録
 - ・ 最低一年保存・管区公示、管区事務所だより。各教区教区報となっています。



教区歴史文書保管委員会委員長 アンデレ 下田尊久

(このような貴重なアーカイブズもありました。)



▽新冠聖フランシス教会

夏のみどり葉が生い茂っていて見えなかつた日高連峰の山並みが、チャンネル越しに見えるようになりました。季節は確実に晩秋から初冬へと向かっています。

牧師はこれからの冬期間は山道は走らずに国道を行くこととなりますが、日高道が厚賀インターまで延長したおかげで以前よりは楽になりました。そのため、途中にある「ふくろうの里」におられる奥田康嘉さんと溝尾秀子さんのところへちよつと寄り道ができます。お二人とも変わらずに平安にお過ごしです。

▽岩見沢聖十字教会

一〇月六日・七日、設計士

お二人を迎えて恒例の園庭改造。今回も職員、保護者と共に手作りによる新しい遊具の設置。日々進化する園庭。

おめでとーございます。八日、畠山潔芽兄と植木杏菜さん入籍。二人は土木コンサルタント会社、(株)ドーコンの同期入社。末永くお幸せに。

秋は実りの季節。一二日、教会の収穫感謝礼拝。祭壇に数々の作物が飾られる。三日、幼稚園の収穫感謝祭。地域のお年寄りを迎えて餅つきも行われる。つき立てのお餅を美味しそうに頬張る園児達。

▽留萌キリスト教会

八月に足の骨折で入院されていた土門明子さんが、無事退院。自宅での暮らしに戻られて何よりです。

二一日は、広谷管理司祭の司式・説教での主日聖餐式でした。

七四歳一ヶ月の生涯を終えたヨセフ寺岡保さんは、逝去一ヶ月を迎えた一〇月二八日に、教会墓地に埋葬されま

した。

さくら(手芸の会)は、千代紙のコースター作りを終えて、大人の塗り絵に挑戦。童心に帰るようなひと時で、皆さんとても楽しんでいました。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会
湿原の風が冬の気配を運ん

できました。一〇月六日、春田佳恵さん会計担当者会議に出席。教区修養会に二名参加。そのお恵みを後日、皆で分かち合う計画。七日の礼拝に、不思議な縁でカナダ在住のヨシザワユウコさん来会。礼拝後委員会。クリスマス準備、厚岸教会の奉仕を話し合う。

二八日、収穫・勤労感謝礼拝捧げ物は二神学校と『ホームのあ』に送ります。頌栄保育園は、二日、地域交流会で

年寄りとお園児の遊戯・手遊びで楽しいふれあい。一五日、七五三祝福の礼拝。三一日、恒例のハロウィン行列です。

▽小樽聖公会

秋も深まり、礼拝堂にも朝に暖房を入れるのが当たり前

になってきました。ガソリン、灯油代が高止まり傾向なのが心配です。

一〇月一四日の主日は、主教巡回日で、植松誠主教様の司式・説教で礼拝をお捧げしました。昼食としばし歓談の楽しい交わりの時が与えられ感謝です。

ここ数年、教会玄関前と道路の除雪に課題がありました。今年から除雪業者を変更することとなりました。適切な除雪が行われ、特に主日の教会周辺の道の安全が保たれることを期待しています。

▽稚内聖公会

「イエスの小さい姉妹会」のマドレーヌさん、旭川の病院に通院のため九く一〇日牧師館に滞在。三五年前からの交わりの思い出話に花が咲く。来々稚内を離れて、福島

の二本松に行かれる由。一九日は與賀田敏子さんの送別礼拝を兼ねた聖餐式。本原さん、マドレーヌさん、旭川から久末隼一さん、広谷栄子さんが出席。礼拝後送別のささやか

なお茶会。淋しくなりますが

主にある交わりは永遠に続きますように！久末さんが狐の穴をとつぺたり、建物の寸法を測るなどのご奉仕。感謝。

▽平取聖公会

毎年一〇月二五日頃に初雪を見る平取の地ですが今年はまだです。遠く見える幌尻岳は冠雪しています。アイヌ所以の場所に「視点場」の看板が立てられています。振内の地の幌尻岳の良く見える場所にも看板が立っています。

一一月第一週に「逝去者記念礼拝」を捧げています。今年には三名の先達に加えられました。一人は伝道師の塚本博愛(大谷 一八六四―一九二九)です。二、三人目は金成マツ(一八七五―一九六二)と知里(金成)ナミ(一八七九―一九六四)です。

▽帯広聖公会

一〇月八日、教区修養会の後、札幌キリスト教会で、寺本家と小貫家の孫六人が揃って主教様から挨拶されました

た。沢山の修養会参加者と共に、神様の祝福、お導きや見守りをお祈りしました。第二

主日の一四日、松井司祭司の聖餐式のあと教会委員会が行われました。二八日は永谷司祭司の収穫感謝の礼拝をお捧げしました。祭壇には、色々な野菜が奉げられ実りの秋に感謝しました。一五日には十勝特産の豆の販売のご案内を発送しました。収穫は遅れ気味ですが、一月一〇日から袋詰め開始です。

▽札幌キリスト教会

七日収穫感謝礼拝は、秋の彩で飾られた祭壇でお捧げ。同日、教区修養会は横浜教区から相澤司祭をお迎えし総勢八〇名の参加を得「私たちの祈りと生活」祈禱書の豊かさの再発見」を学び祈禱書の持つ豊かさに触れることができ感謝。一四日恒例の誕生会、今月の誕生者を代表し大町司祭から健康に感謝のスピーチを頂きました。二〇日夏に当教会から伺った日キ教団千歳栄光教会の皆様を迎え、前日

の大倉シャンツェ迄の親睦遠足から親交を深めました。二五日世界宗教学者平和会議シンポジウムが開催、二八日大町司祭有珠の為、横山・大友司祭による礼拝。阿部聖職候補生は、二カ月間の執事試験に合格されたとのご報告があり、神の許しを賜れば執事按手に！

▽新札幌聖ニコラス教会

二日から五日まで、上平聖職候補生は執事試験。みんなが無事に終わられることを祈る。七日、八日と横浜教区相澤

牧人司祭をお招きして教区修養会が開かれる。豊かな祈りと信仰生活の基盤としての祈禱書について学びを深める。ニコラスからは四名の出席。二八日、逝去記念聖餐式をお献げした後、田山墓地にて塚本礼子姉ご夫妻とご両親の納骨式を行う。一六名の出席。現在六名の洗礼志願者を得て、お一人ずつ準備を開始する。どうぞお祈りの内に覚えてくださいますように。

▽聖マーガレット教会

二七日子どもハロウィンを開催。近隣の子どもとその父母の計二〇名余と教会員あわせて約三〇名余が全員仮装して写真を撮ったり、近隣を練り歩いてお菓子をもらい楽しみました。当日は大雨のため訪問したのは二軒のみでしたが、ほか四軒よりお菓子の提供を受けて教会で子ども達に配布しました。二八日勤労・収穫感謝礼拝をお捧げ致しました。礼拝で献じた収穫物は会衆が買い求め、その収益金を、献金いたしました。

▽札幌聖ミカエル教会

当教会の信徒、雨宮春子さんがJOC S (日本キリスト教海外医療協力会) のワーカーに選ばれ、来年よりタンザニアに派遣されます。彼女の働きを支える「グレースの会」も発足、すでに百名を超える入会申し込みがあり感謝です。今後も入会受付をしています。どうぞお問い合わせ下さい。二二日、収穫勤労感謝礼

拝、そして二四日には聖堂に新しいオルガンが設置されました。新鮮で豊かな音色により礼拝がますます豊かになりました。月一度のロザリオの祈り会、毎週二箇所で行われる家庭集会も地道に続けられています。

▽苫小牧聖ルカ教会

ボランティアセンターの活動が予定より早く終わり、亀裂の入った教会壁面の修理工事が始まりました。七日(日)からの教区修養会には四名が参加。相澤先生の話をしつくりとお伺いしました。

▽函館聖ヨハネ教会

一四日、今年三回目の「聖堂コンサート」は、市川須磨

子さんによるマリンバ演奏が行われました。聖堂内に柔らかなマリンバの音色が響き、この時期だけ祭壇前に映し出されるステンドグラスの十字架が演奏者の前に輝きました。何とも不思議な素敵な雰囲気、沢山の市民の皆さまと、神様に守られ穏やかな時を過ごしました。

枯れ葉が多く舞う季節になり、クリスマスミニバザーの準備を始めました。二八日は、全逝去者記念聖餐式後、墓地礼拝。天気に恵まれ感謝。司祭は三〇日から、刑務所の全国教師大会のため広島へ。旅の安全をお祈りします。

▽紋別聖マリヤ教会

一〇月に入り山々は紅葉が進み、天候も気温も秋らしい日々が続いております。一〇月二日、収穫感謝礼拝が行われ農作物などの収穫の恵みに溢れたものになりました。あらためて大地が私たちの生きるための糧を与えてくださっていることに共感いたしました。二八日、礼拝終

了後にクリスマス準備としてハンドベル演奏の練習を始めました。ここ数年披露しているのですが、今年は更なるスキルアップを目指してトレーニング中です。

▽有珠聖公会

一〇月二四日、世界宗教者平和会議(WCRP) 日韓宗教指導者交流会の皆さんを教会に迎えました。WCRPは、宗教を越えて世界平和という宗教者共通の価値の実現のため働いており、植松主教が日本委員会の理事長です。礼拝堂で、大町司祭が、聖公会のアイヌ宣教・バチラー夫妻・八重子さんの事など講演しました。

二八日、収穫感謝礼拝、持ち寄られた野菜で祭壇が美しく飾られました。礼拝後、クリスマスコンサートに向け、お茶を囲みながら話し合いました。

▽室蘭聖マタイ教会

一〇月六日教会会計担当者が会議に山本兄が出席して下さい。

七日、二一日藤井兄に依つてみ言葉の礼拝を司式して下さい感謝。

一四日吉野司祭に依る聖餐式及び収穫感謝礼拝。

毎年乍ら山田兄が植えられた大根・カボチャ・ジャガイモ外、信徒提供のリンゴ、ブドウ等神様からの尊い品々を飾りました。

又本日は牧師館の解体について昼食後、臨時堅信受領者総会を催す。牧師館は老朽が著しく地震によりガラスが数枚破損したため。業者は教会委員会で協議する。

▽旭川聖マルコ教会

木の葉も色づき秋と思つたら、すぐに冬の気配も感じる季節となりました。

毎月の第一日曜日は信仰の先輩で天に召された方々の逝去者記念聖餐式(レクイエム)を行っており、一〇月七日も、信仰のうちに世を去った人々を記念し永遠の主との交わりをとともに祈りました。

一〇月二一日は甲斐博邦司祭の司式説教が行われ共に聖

餐式を感謝のうちに捧げました。二八日は広谷司祭が韓国へ出かけるため久末典子さん司式、久末隼一さんの勧話により主日の礼拝を守ることができました。感謝。

▽深川聖三一教会

一〇月三日、深川あけぼの保育園の小さな農場産の収穫物をもって感謝祭の供えものとし、子門真人さんのかわいい歌「はたけにおやさい」を歌う。一一日、同園の職員会議。一八日、同園の職員採用面接、チャプレン陪席す。

一四日、長沼町の仲野勇二さんの東屋で野外礼拝、九名出席。仲野農場のプラム、りんご、りんごジュースで歓迎していただく。感謝。一同仲野道一さんの農園に立ち寄る。

一九日、ダビデ岡本亮二さん逝去する。広谷牧師司式、甲斐司祭補式、祈魂之平安。二八日、教会報発送。

▽網走聖ペテロ教会

一〇月は当地方、いつになく紅葉が長く、目いっぱい楽しませてもらっています。毎

年同じ月を迎えても、その時候により風の強い日、雨の多い日によってこんなにも紅葉の楽しみ方が違うものか、驚かされます。

自然の働きの中から、すばらしい恵みを感じます。

二八日は主教巡回礼拝、収穫感謝礼拝の恵みを目いっぱい感謝いたしました。野菜も色とりどり沢山供えられました。

和田さんは一カ月近いブラジル旅行から無事帰り、教会員一人ひとり、「のあ」の子ども達、スタッフ皆安堵しました。主に感謝。

▽北見聖ヤコブ教会

個展を開かれた岡嘉彦さん瑛子さんご夫妻が二作品を教会にご寄贈くださり、玄関を入った正面の廊下の壁に掛けさせていただき、格調高い廊下に変身いたしました。お二人の絵画には言葉を超えるものがあるのだと思います。

二八日(日)は午後二時から主教巡回礼拝で、主教様の説教を通して、目の不自由な

バルティマイという人物の癒しを通して、一人の人間の愛と悲しみを深く黙想しました。

北見は早朝は一ケタの気温で先日は氷点下でした。いよいよですね。

▽今金インマヌエル教会

今金、せたな地域の一〇月は収穫時期ということもあり、月二回、少人数での礼拝です。稲を刈り取ったばかりの田んぼでは、カラスがここぞとばかりに隠れていた虫たちをついばんでいました。少しずつ秋から冬へ移りゆくなか、一月一日にささげられる収穫感謝礼拝で、祭壇前に今年収穫された農作物が並びます。美味しい素材がそろって今年金教会の皆さんは、料理上手な方ばかり。礼拝後の祝会に何を持っていくこうかしら、そんな話題がきこえてくるこの頃です。

